

報道関係者各位

ちひろ美術館・東京 2022年秋の展覧会のご案内

2022年10月8日(土)～2023年1月15日(日)
くらし、えがく。ちひろのアトリエ

平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。さて、ちひろ美術館・東京の2022年秋の展覧会詳細について、別紙の通りご案内申し上げます。ご高覧のうえ、ぜひご掲載・ご取材賜りますようお願い申し上げます。

プレス用作品画像データ借用・誓約書

以下の内容をお読みいただき、必要事項をご記入のうえ、FAXにてお送りください。

本展覧会をご紹介いただける場合に、リリース内に掲載の作品画像データをお貸しいたします。

貸出画像一覧をご覧いただき、ご希望の画像にチェックをお入れください。企画書等とあわせてお送りいただければ幸いです。

掲載にあたっての注意事項

- 必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。
- トリミングや、文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。
- データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。
- 掲載紙/誌をご送付ください。

読者・視聴者へのプレゼント用招待券のご提供

本展覧会として、作品図版掲載を条件に、1媒体につき、招待券を5組10名様分をご用意しています。

お届けは掲載紙/誌をご送付していただいてからとなりますので、あらかじめご了承ください。

ご所属

お名前

E-mail

ご住所 〒 -

TEL. FAX

掲載紙/誌名

画像受取希望日 月 日発行 号

月 日 まで

プレゼント用招待券 希望する ・ 希望しない

備考

■誓約

- ◎借用デジタルデータを上記目的以外に使用しないことを誓約します。
- ◎借用デジタルデータを無断で編集、改変しないことを誓約します。
- ◎借用デジタルデータを無断で転用しないことを誓約します。
- ◎借用デジタルデータを作業上、やむなくPC等にコピーする場合は、作業後、必ず、同データを削除することを誓約します。

上記事項に同意し、万が一、違約した場合は、然るべき損害賠償を負担します。

貸出画像一覧

No.	作 品	check
1-1	いわさきちひろ アトリエの自画像 『わたしのえほん』(新日本出版社)より 1968年	
1-2	アトリエで絵を描くいわさきちひろ 1967年	
1-3	いわさきちひろ 屋根裏のアトリエで本を読む自画像 1947年頃	
1-4	いわさきちひろ 庭に出た寝巻き姿のアンナ 紙芝居『お月さまいくつ』(童心社)より 1958年	
1-5	いわさきちひろ 玉虫の厨子の物語 1954年	
1-6	いわさきちひろ 小指をくちにあてる少女 1969年	
1-7	いわさきちひろ ストーブとふたりの子ども 1965年頃	
1-8	いわさきちひろ ストーブに薪をくべる少女 1973年	
1-9	いわさきちひろ スキーをする少年 1969年	
1-10	黒姫山荘のアトリエで絵を描くいわさきちひろ 1971年	
1-11	ちひろ美術館・東京の復元アトリエ	
1-12	いわさきちひろ 赤い毛糸帽の女の子 『ゆきのひのたんじょうび』(至光社)より 1972年	
1-13	いわさきちひろ 母の日 1972年	
1-14	いわさきちひろ 手に包帯をしたひさ 『ひさの星』(岩崎書店)より 1972年	
1-15	いわさきちひろ たたずむ少年 『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1972年	

借用者署名

印

画像削除予定日 年 月 日

くらし、えがく。 ちひろのアトリエ

2022年10月8日(土)～2023年1月15日(日)

会場：ちひろ美術館・東京 展示室1・2・3・4

主催：ちひろ美術館

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、
(公社)日本図書館協会、杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区

「自分のやりかけた仕事を
一歩ずつたゆみなく進んでいくのが、
不思議なことだけれど
この世の生き甲斐なのです。」

いわさきちひろ 1972年
(エッセイ「大人になること」より)



1-1 アトリエの自画像 「わたしのえほん」(新日本出版社)より 1968年

いわさきちひろが22年間を過ごした練馬区下石神井の自宅の跡地に建つ、ちひろ美術館・東京。ここには、多くの絵が生まれ、日々のくらしが営まれたアトリエの、1972年当時のようすが再現されています。画机や本棚などの愛用の品々が遺されたアトリエからは、50年を経た今も、ちひろの人物像を偲ぶことができます。

ちひろは戦争のなかで一度は夢を見失いながらも、戦後、懸命に絵を描いて、子どもの本の画家としての道を拓きました。また、愛する人と家庭を築いたちひろにとって、家族とのくらしもかけがえのないものでした。本展では、くらしと仕事の両方を大切にしながら自分の人生を切り拓いたちひろの生き方を、アトリエを軸にたどります。画家としての出発点となった神田の下宿、家族とともにくらしした練馬の自宅、信州の黒姫高原に建てた黒姫山荘——それぞれのアトリエで描かれた作品のほか、ちひろ自身のことば、身近な人の証言、写真や資料なども紹介します。



1-2
アトリエで絵を描く
いわさきちひろ
1967年

いわさきちひろ(1918～1974)

1918年福井県武生(現・越前市)生まれ、東京で育つ(旧姓名・岩崎知弘)。3人姉妹の長女。1936年東京府立第六高等女学校卒業。絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年に松本善明と結婚、同年、紙芝居「お母さんの話」を出版、文部大臣賞受賞。翌年、長男を出産。絵本などの子どもの本を中心に、新聞、雑誌、カレンダーなどさまざまな印刷メディアに絵を描いた。1974年、肝臓ガンのため死去。享年55。

基本情報

開館時間 10:00～16:00 (最終入館は15:30まで)

休館日 月曜日(祝休日の場合は開館、翌平日休館)

料金 大人1000円／高校生以下無料
団体(有料入館者10名以上)、65歳以上、学生の方は800円／障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料
年間パスポート3000円



展覧会の見どころ

① 東京のアトリエの移り変わりを見ていきます (展示室1)

<神田の下宿>

いわさきちひろは第二次世界大戦後、27歳のときに、自立して生きていこうと疎開先の信州から単身東京に戻り、神田の叔母の家の屋根裏部屋に間借りして、働きながら絵の勉強を始めました。次第に印刷美術の画家として仕事を広げるなか、近くのブリキ屋さんの2階に部屋を借りて移り、そこで結婚して、母になりました。



1-3 屋根裏のアトリエで本を読む自画像 1947年頃

<練馬のアトリエ>

ちひろは1952年に練馬区下石神井に家族3人が住める小さな家を立てました。初めは居間の一角が仕事場で、子育てをしながら絵を描きました。夫の両親と同居をするために2階を増築した1963年、初めてちひろは自分のアトリエを持ちました。このアトリエでちひろはますます仕事を充実させ、1960年代後半からは絵本制作に力を注いでいきました。



1-4 庭に出た寝巻き姿のアンナ
紙芝居『お月さまいくつ』(童心社)より 1958年



1-5 玉虫の厨子の物語 1954年



1-6 小指をくちにあてる少女 1969年



1-7 ストープとふたりの子ども 1965年頃

② 信州のアトリエ・黒姫山荘を紹介します (展示室2)

1966年には、信州北端の黒姫の地に、女性建築家の奥村まことに設計を依頼して、もうひとつの大切なアトリエである黒姫山荘を建てました。都会の喧騒から一時離れ、四季折々の自然のなかで過ごすこの山荘での時間は、ちひろに多くのインスピレーションを与えました。また、晩年に伊豆・熱川にも奥村の設計によるアトリエが建てられましたが、ちひろは使うことなく亡くなりました。



1-8 ストープに薪をくべる少女 1973年



1-9 スキーをする少年 1969年



1-10 黒姫山荘のアトリエで絵を描く
いわさきちひろ 1971年

展覧会の見どころ

③ ちひろの1972年に焦点をあてます(展示室3・4) *展示室4ではピエゾグラフを展示します

ちひろ美術館・東京には、ちひろが亡くなる2年前の、1972年のアトリエがそのままに復元されています。この年はちひろの画業のなかでも最も充実した一年といえる年で、『ゆきのひのたんじょうび』や『ひさの星』、『戦火のなかの子どもたち』などの代表作を描いています。一方で、大家族を支える主婦としても多忙を極め、体調を崩していった年でもありました。今から50年前、ちひろが53歳だったこの一年に焦点を当て、ちひろのこととともに作品を紹介します。



1-11 ちひろ美術館・東京の復元アトリエ

「なつかしい、やさしい、人の心のふる里をさがします。

絵本の中にそれがちゃんとしてあるのです。」

1972年(エッセイ「絵本づくりの仕事場より」より)



1-13 母の日 1972年

「平和で、豊かで、美しく、可愛いものがほんとうに好きで、
そういうものをこわしていこうとする力に限りない憤りを感じます。」

1972年(インタビューより)

1-12 赤い毛糸帽の女の子
『ゆきのひのたんじょうび』
(至光社)より
1972年

「私は私の絵本のなかで、いまの日本から失われたいろいろなやさしさや、
美しさを描こうと思っています。それをこどもたちに送るのが私の生きがいです。」

1972年(対談「今だからこそ失わないでほしい」より)

1-14 手に包帯をしたひさ 「ひさの星」(岩崎書店)より
1972年

「大人というものはどんなに苦勞が多くても、
自分のほうから人を愛していける人間になることなんだと思います」

1972年(エッセイ「大人になること」より)

1-15
たたずむ少年
『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より
1972年

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※掲載紙/誌をご送付ください。

くらし、えがく。ちひろのアトリエ 関連イベント

●講演会「奥村まことが設計したちひろのアトリエ」
(オンライン)

日時：10月16日(日) 14:00～15:00

講師：村上藍(『奥村まことの生涯とその設計』著者)

参加費：500円/定員：70名/申し込み：Peatixにて受付

●講演会「ちひろのアトリエ」(オンライン)

日時：11月13日(日) 14:00～15:00

講師：松本猛(ちひろ美術館常任顧問)

参加費：無料/定員：70名

申し込み：Peatixにて受付



会期中のイベント

●親業講演会

日時：10月29日(土) 10:00～12:00

講師：田中満智子(親業訓練協会インストラクター)

対象：大人(未就学児の同伴も可)

定員：8組16名

申し込み：要事前予約(ちひろ美術館公式サイト、
TEL.03-3995-0612にて9月29日(木)より受付開始)

※詳細は決まり次第、公式サイトにてお知らせします。

●わらべうたあそび

日にち：11月19日(土)

講師：服部雅子

(西東京市もぐらの会代表・はとさん文庫主宰)

対象：0～2歳11ヵ月児と保護者

申し込み：要事前予約(ちひろ美術館公式サイト、
TEL.03-3995-0612にて10月19日(水)より受付開始)

※詳細は決まり次第、公式サイトにてお知らせします。



●ワークショップ「あなたの『好き』を描こう、つくろう」

日時：12月10日(土) 14:00～15:30

講師：富田めぐみ

(NPO法人 赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)

対象：外国語を母語とする3～6歳児と保護者(英語対応あり)

申し込み：要事前予約(ちひろ美術館公式サイト、
TEL.03-3995-0612にて11月10日(木)より受付開始)

※詳細は決まり次第、公式サイトにてお知らせします。

●あかちゃん/子どものための鑑賞会

(外国語を母語とする家族を含む)

日にち：12月11日(日)

講師：富田めぐみ

(NPO法人 赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)

対象：0～2歳児 10:30～12:00

3～6歳児 14:00～15:30

(英語対応あり)

申し込み：要事前予約(ちひろ美術館公式サイト、
TEL.03-3995-0612にて11月11日(金)
より受付開始)※詳細は決まり次第、
公式サイトにてお知らせします。見つめる子どもたち
1969年

●目の見えない白鳥さんといっしょにちひろの絵を楽しもう

日時：1月8日(日) 14:00～

ナビゲーター：白鳥建二(全盲の美術鑑賞者、写真家)

対象：大人/定員：5名

申し込み：要事前予約(ちひろ美術館公式サイト、
TEL.03-3995-0612にて12月8日(木)より受付開始)

※詳細は決まり次第、公式サイトにてお知らせします。

●いわさきちひろの誕生日

日時：12月15日(土) 10:00～16:00

いわさきちひろは1918年12月15日に生まれました。この日ご来館の方に、ちひろのこたばカードを差し上げます(先着順)。

●ギャラリートーク

第1・第3土曜日 14:00～14:30

参加費：無料(入館料別) / 定員：15名 / 申し込み：当日受付
当館学芸員が開催中の展覧会の見どころなどをお話します。

●絵本のじかん

第2・第4土曜日 11:00～

参加費：無料(入館料別) / 定員：15名 / 申し込み：当日受付

協力：NCBN(ねりま子どもと本ネットワーク)

展覧会基本情報

開館時間 10:00～16:00(入館は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日(祝休日は開館、翌平日休館)、年末年始(12月28日～2023年1月1日)

入館料 大人1000円/高校生以下無料/団体(有料入館者10名以上)、65歳以上、学生の方は800円/障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料/年間パスポート3000円

交通 ○電車の場合＝西武新宿線上井草駅下車徒歩7分
○バスの場合＝JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分/西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

※ちひろ美術館・東京は、お客さまに安全にお過ごしいただけるよう、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため十分な措置を講じたくえで、開館しております。当面の間、開館時間を短縮しています。

※開館情報、会期、展示名、イベント内容などは予告なく変更する可能性があります。